



写真2 学校までの冬道



写真1 校舎

とまでできず、サポートしてくださる先生たちにも迷惑をかけました。自分ひとりの力では全く授業は成立しませんでした……。今まで築き上げてきた自分の自信やプライドが崩れていくだけではなく、逆に無力さを思い知らされました。

①「他教員の協力は不可欠」
どうやって教員の理解・協力を得るか。
②「武道を理解できるか」
なぜ武道をやるのか（どうやって伝え、どうやって行うか）。
③「障害の度合い」
能力に差がある中で、どんな内容を扱うか。また、授業展開をどう工夫するか。

現状で、特別支援学校の体育における、武道の位置付けは微妙な位置にあると感じます。

2 つまずき② 体育で武道を扱う際の課題

まず、普段から生徒たちの様子や特性をよく理解してくれている、同僚の先生方の助けが絶対に必要となります。そして、様々な課題がある中で、生徒たちの興味関心を引き出す授業をしなければなりません。

まず、武道の良さ、楽しさ、意義を生徒に伝える前に、それをサポートしてくれる仲間の教員に武道の魅力を伝え、それを授業で扱うことが可能だということを、理解してもらわなければならないと考えました。そこで、授業実施前に次のような内容の文書を配布しました。

3 解決策①

特別支援学校に異動してきて、印象的だった言葉が「特別支援学校の授業は、事前準備で9割の仕事が終わる」でした。それくらい細かい配慮と授業内容の精選が必要だということを、私は改めてこの学校で学びました。

「空手道を実施するにあたり、生徒たちには、挨拶をはじめとする礼節や相手を敬う心、感謝する気持ち、自分の身を守る力などを学ばせたいと考えております。また、空手道で汗を流すことの楽しさを生徒たちが知り、生涯にわたって生徒たちが健康維持・増進をできる方法を授けたいと考えます。
2020年の東京オリンピックでは、空手道は正式種目として採用されることが決まってお

シリーズ 中学校武道

授業の充実に向けて

130

つまずきをどう克服したか^{②③} (特別支援学校での空手道授業)

北海道七飯養護学校おしま学園分校 教諭 竹口 輝

私が勤務する北海道七飯養護学校おしま学園分校は、北海道の北斗市にある特別支援学校で、小学部、中学部および高等部があり、約40名が在籍しています。

生徒たちの多くは、学校の近くにある施設で暮らしており、そこから毎日通学してきます。学校の周りは、大自然に囲まれており、豊かな自然と動植物とともに、大変良い環境の中で生徒たちは生活しています。

現在、私は普通高校から異動をして3年目となりますが、特別支援学校のノウハウについては正直まだ熟知しておりません。しかし、在籍する中学部では体育を担当し、特別支援教育に関する豊富な知識を持つ同僚の先生方の助けを借り、昨年度はじめて「空手道授業」を実施することができました。

1 つまずき① 特別支援学校の洗礼

私が普通校から異動してきて、最初のつまずきは、これまで20年近く行ってきた授業のやり方がほとんど通用しないということでした。今までは一斉授業で80名程度のクラスを、2〜3名の教員で指導することがほとんどでした。それができていたのは、言葉を理解して、約束やルールを守り、仲間と協力して授業を受けることがで

きる生徒を相手にしていたからでした……。
しかし、本校には、知的障害と自閉症の生徒が多く在籍しており。言語指示がほとんど通じない生徒、教室で静かに座ってられない生徒、突然大きな声を出す生徒、飛び跳ねてしまう生徒、クラスメイトと一緒に活動をするのが難しい生徒など、生徒の個性は様々です。そんな中で体育の授業をすることは、当時の私にとって大変困難なことでした。専門的な知識の乏しい私の授業は、生徒に通じず、伝わらず、楽しませるこ

日本教育新聞 電子版サービススタート!
「いつでも、どこでも、見たいときに。」

スマートフォン・タブレット対応

日本教育新聞
NIKKYO WEB

**「日本教育新聞」
ご購読の方は
電子版無料!!**

**お試し無料会員
募集中!**

ホームページからは
会員登録をクリック!

まずはカンタン
無料会員登録!

N 日本教育新聞社
JAPAN EDUCATIONAL PRESS

日本教育新聞

検索



写真 7



写真 8

**解決策③ 能力差
と授業展開の工夫**

クラス内で生徒の実態は3段階に分かれていました(生徒7名に
対し、教員は6名)。

A 言語指示が通じる、高等支援
学校に入る実力のある生徒

B スケジュール、手順書があれば
授業に参加できる生徒

C スケジュール、手順書があつ
ても授業内容等の理解が困難な
生徒

この3段階の生徒を、同時展開
しました。コンセプトは「障害の
重い子であっても楽しめる内容」
でした。

1、はじめに全員で「基本(突
き技、数種類の受け技)」を行
いました(写真7)。

2、次に能力別に分け(①Aの
生徒、②B・Cを混ぜた生徒)、
空手道の裏でサーキット運動を展
開しました(もう一人の体育担当
者が15〜20分程度行う)(写真8)。

①の生徒に対しては、言語指示
で「形」を教え、「ミット打ち」

活動場所や自分の席を明確に提
示(座席に顔写真を置くなど)。
・生徒の順番を明確にする(顔写
真を貼る)。

生徒同士の相性(他害のある
子)を考慮して、待機場所や順番
を決める。

「武道のよさ」「武道の楽しさ」
を生徒だけでなく、関わる先生達
にも分かってもらいたい! そう
強く願って協力を依頼しました。
同僚の先生方には、授業準備の段

2018年10月 竹口 輝
(部分的に抜粋)

今回授業を組み立てるう
えで、先生方の理解と協力が不可
欠です。ひとつお力添えをいた
だき、生徒たちにとって意義あ
る授業が行えたらと考えており
ます。

しかしながら、本校には幅広
い個性の生徒たちがおります。
武道を学ぶことにより、空手の
形を覚えて演武するレベルに達
することが出来る子もいれば、
礼法を学び、挨拶ができるよう
になることを目標にする、とい
う生徒がいてもかまわないと思
います。

りますが、授業で自分たちが学
んだ内容が、TVなどでタイア
ップされ、それを見た時、生徒
たちの社会参画意識や自己肯定
感は高まると考えます。

階から、実施に至るまで、専門的
なアドバイスをたくさんいただき
ました。

4 解決策② どうや って伝えるか

強い自閉症特性をもつ子や知的
障害のある子たちに、いかに伝
え、通じさせ、興味を持たせるか、
ということはもつとも困難な課題
でした。

授業の工夫——視覚的に伝える
・事前学習で映像を見せる(日本
武道協議会作成の中学校武道必修
化指導書および映像集を使用)(写
真3・4)。
・作法、基本稽古、基本形1・2
(紙でも配布)の説明等。
・授業内容を視覚的に提示して見
通しを持たせる(ホワイトボード
に授業内容を貼り、終わる毎に剥
がしていくことで見通しを持たせ
る)。
・実施する種目・回数(なにを、

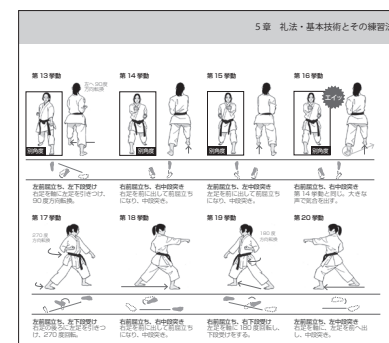


写真 4



写真 3



写真 6



写真 5

表 1 指導略案

日 時	平成31年2月26日(火)・3月5日(火) (F12:50~13:35) 13:40~14:20								
授業内容	・空手およびサーキット ↓生徒名はイニシャルに変えてあります。Tは教員。								
支援体制	空手：竹口 サーキット：TA	S		O	SU	N	SA	NA	F
		TB			TC	TD	TE	TF	TG

学習の流れ ※（ は F	学 習 内 容	配慮事項
1 始めのあいさつ (12:50) 13:40	○整列し、あいさつをする (※F:体育館の設営を手伝う)	・ステージ側
2 先生のはなし	○本時の学習内容を説明	・ホワイトボードで全体提示 ・顔写真使用
3 準備運動	○教員が前に出て行い、生徒はマネをする。	・めくり写真を使用
4 A 空手 B サーキット 13:45~14:00 ※Fは サーキット→空手の順 サ(13:10~13:15) 空(13:15~13:35)	○A空手 (S、H、O) ①礼法指導 (正座、座礼、) ②基本練習 (突き(上げ受け、下段払い、手刀受け) ③型練習 (基本型1、※できれば基本型2も) ○Bサーキット (N→SU→SA→NA)	 ＜使うもの＞ ラダー、コーン、マット ハードルなど
5 A サーキット B 空手 14:00~14:15	○Aサーキット (S→H→O) ○B空手 ①パンチ (教員相手: N→SU→SA→NA) ②棒を受ける (上に同じ) ③的を蹴る (上に同じ) ※それぞれ10回程度ずつ	※Aは1人3回程度 ＜使うもの＞ ①パンチボール ②ストレッチポール ③ミット
6 後片付け 14:15	○残っている全員で後片付けをする	※生徒の状態に応じて教室に戻って活動する。
7 あいさつ 14:20	それぞれ終了次第あいさつして終了	



写真 11



写真 10



写真 9

後には演武も行いました（写真9・10）。

②の生徒は、「受け技」や「ミット打ち」を行いました。ホワイトボードに回数や顔写真を提示して、回数や順番を理解させました。

3、さらなる困難な課題として、実はちょうどその時期、1人の生徒が大変難しい状態にありました。そこで、その1人の生徒の授業（マンツーマン）と他生徒の授業を分けて行いました（写真11）。その際の授業案が、表1「指導略案」です。

「**導略案**」です。

様々な困難がありました。が、同僚の先生方の協力があった、授業は成功に終わりました。ミットを打って笑顔を見せた生徒、お別れ会で、おぼえた形を披露した生徒など、結果として、生徒たちが楽しんで授業を受けてくれたことを、実感することができました。

生徒たちの純粋な笑顔を見て、これからも、生徒たちが、心から楽しいと思えるものを、ずっと続けたいと思えるものを（分かりやすく）たくさん経験させたいと思います。そして、武道が「生きる活力」になることを願っております。

今回執筆させていただくにあたり、自分が書けることは何かを考えました。そこで「普通校で長く働いていた人間が、特別支援学校で働いてみて気付いたこと」を書いてみようと思いました。

普通校の先生が、あたり前に通
じるところに、特別支
援学校では通じないことが多々あ
ります。その「あたり前」は、今
思えば、実は普通校の生徒にも通
じていなかったのではないかと、と
考えることがよくあります。

今、学校で一緒に生活している生徒たちは、理解して、納得しな

ければ、その場で我慢してやつてくれても、その後、必ず崩れます（暴れたり、ものを投げたり、叫んだり、泣いたり）。そこで、どうしたら伝わるのか、どうしたら生徒が活動したくなるのかを普段からたくさん考えるようになりました。

結論は簡単でした。「分かりやすく、楽しい」ものであればいいのです。ありとあらゆる手を使って、とにかく「分かりやすく、楽しい」授業をすればいいのです。そして、自分も一緒に楽しんでしまえばいいのです。楽しいことがないと、人生つまらないのはだれもが同じです。それが、武道であれば、これは嬉しいことです。

北海道でも、特別支援学校が武道の授業を取り入れているところは少ないですが、本校の取組（表2「指導実績報告」）が、何かのヒントになって、武道授業をやってみようと思ってくれる人が増えれば素晴らしいと考えます。

表2 指導実績報告

<指導実績報告>

北海道七飯養護学校おしま学園分校

中学部体育担当：竹口 輝

中学部体育（空手道）

学習内容

○実施予定期間（11月末～1月末（火曜日）13：20～14：20）※5～6回程度

→今年度は2月26日、3月5日の2回のみ実施しました。

○事前学習（授業実施の前の週）

- ・空手道について（ビデオ鑑賞、やることの説明）
- ・指導書を使って説明

→中学校武道必修化指導書および映像集（日本武道協議会）

※作法、基本稽古、基本形1・2（紙でも配布した）の説明等に使用しました。

○取扱った内容

- ・礼法（礼など）
 - ・相手を尊重する心（思いやりのある言動、態度）
 - ・相手に対する感謝の心（思うだけでなく、動作に表す）
 - ・自分を律する心（心を静め、粗雑な行為を防止する）
- ・基本練習（その場で、立ち方、突き、受け（あげ受け、下段払い））
出来るグループ、難しいグループで取り扱う内容や指導方法を変えて行いました。
- ・ミットを使った運動（突き、蹴り、受け）
ここが意外に盛り上がり、活動の理解が難しい生徒達も楽しんで活動していました。
- ・形（基本型1、基本型2）
個人練習→団体練習→団体で演武
- ・授業の振り返りと健康状態の確認

<事前に確認したこと>

○指導グループ（待てる、待てない、飛び出しの有無）、個別支援者（担当者）、活動時間等の事前確認

○授業のボリューム

○配慮事項

→事前に教員団に確認したこと

- ・生徒によっては、参加出来なかった場合の対応（誰が、何を、どこで）
- ・参加したが出来なかった場合の対応（代わりにどんな活動をするか）
- ・写真や絵カードを授業中に使用して、視覚的に支援。